

令和7年度 川辺町立川辺中学校 学校だより

令和8年 2月16日

空高水清～故郷川辺の空のごとく志高く、飛騨川の水のごとく清らかに～

【学校教育目標】自ら学ぶ 共に歩む たくましく生きる

川辺町あらたまプラン推進校

ホームページアドレス <http://kyoiku.kawabe-town.jp/jhs>



15歳の君たちへ

文化庁が毎年実施している「国語に関する世論調査」において、興味深い結果があります。2024年度の結果をQ&Aで紹介しながら、記事を進めます。

Q「仕事を終えた人に掛ける言葉で一番多いのは何ですか？」

A「ご苦労さま(でした)」→ 2005年度の49.8%から19.7%に減少

A「ありがとう(ございました)」→ 2005年度の36.6%から70.0%に増加

相手が会社の目上の人の場合は、15.1%から3.5%に、部下や後輩の場合は、36.1%から14.9%に減り、「お疲れさま(でした)」や「ありがとう(ございました)」を選ぶ人が増えたとのことです。「ご苦労さま」離れが進んでいます。

また、本来と異なる意味が定着しつつある言葉もあります。例えば、「潮時」は、本来の「ちょうどいい時期」(41.9%)よりも、「物事の終わり」(46.7%)と捉える人の方が多かったのです。

さらには、自宅の固定電話を指す「家電(いえでん)」、きれいに撮影できることを示す「映(ば)える」、有料サービス利用を指す「課金する」といった言葉は、いずれも5割前後が「使うことがある」と回答し、8割超が、他人が使用しても「気にならない」と回答しています。

Q「文字や語句、言葉遣いにSNS普及の影響があるか？」

A「あると思う」→ 89.3%

Q「文字や語句にどんな影響があるか？」 ※複数回答可

A「略語が増える」→80.1% 「言葉の新しい使い方や新しい言葉が増える」→76.9%

Q「言葉遣いにどんな影響があるか？」 ※複数回答可

A「短い言葉でのやりとりが増える」→73.1% 「十分に吟味されないまま使われる言葉が増える」→67.2% 「世代間の言葉の使い方の違いが大きくなる」→64.4%

時代とともに様々なことが変わっていきます。価値観の変化も仕方ないことなのでしょう。そんな時代の変化の中でも、「自分らしさ」を大切にして自分の未来を育ててほしいものです。

こんな新聞記事もありました。

「緩く長く働く“静かな退職”」…“静かな退職”の具体例

- ・定時に帰る ・管理職を希望しない ・休みはしっかり取る ・必要最低限の職務をこなす
- ・職場の飲み会不参加

若者を中心に浸透 企業は賛否……※“静かな退職”は Quiet Quitting の和訳とされる

【文責:校長 小畑 清夫】

義務教育9年間の締めくくりに向けて、3年生の歌声が響く川辺中

3年生の教室から、毎朝合唱の音が響いてきます。卒業まで1か月を切り、自分たちの成長した姿を歌声に込めて披露する準備が進んでいます。1, 2年生は、3年生の姿から学び、感じ取り、伝統として引き継ぐことでしょう。伝統の3Cは川辺中の宝物です。



日	曜	3	主な行事	下校
1	日			
2	月		卒業式準備	16:10
3	火		卒業式練習	16:10
4	水		卒業式練習 岐阜県公立高等学校入学者選抜	3年11:40 12年15:10
5	木		卒業式総練習 岐阜県公立高等学校入学者選抜	1年13:30 23年15:10
6	金		卒業式	1年10:10 2年10:55 3年11:50
7	土			
8	日			
9	月			15:10
10	火		授業参観・学級懇談会	14:45
11	水		議会	15:10 15:50
12	木		部活動	15:10 16:10
13	金		委員会	15:10 15:50
14	土			
15	日			

予定は変更することがあります。

日	曜	3	主な行事	下校
16	月			15:10
17	火		部活動	15:10 16:10
18	水			15:10
19	木		大掃除	15:10
20	金		春分の日	
21	土			
22	日			
23	月			15:10
24	火			15:10
25	水		学年集会	15:10
26	木		修了式 離任式(1, 2年のみ参加)	11:30
27	金			
28	土			
29	日			
30	月			
31	火			



令和7年度全国学力・学習状況調査の結果より

国語・数学・理科の学力テストの平均正答率は、全国とほぼ同等で、国語においては岐阜県平均をやや上回り、理科・数学では若干及ばなかったという結果でした。各教科の基礎基本となる知識や技能は概ね身に付けています。しかし、全国や県の傾向と同様に、国語では文脈に即した漢字を正しく使うことや文章の書き換え、自分の考えに理由を付け足して説明する問題に誤答がみられました。数学では、用語の理解や問題文を正確に読み取ったり、答えを説明したりすること、理科では元素記号や化学変化の分解などについて誤答が見られました。授業改善としては、どの教科においても、課題に対して自分なりの考えをもち、それをもとに仲間との協働学習を通して解決できるように努めています。またICT機器を活用した授業も多く取り入れています。さらに、生徒が身に付けた内容や見方・考え方を普段の生活で活用できる場面を見つけ、課題解決につながることを実感する場をもつことで、主体的に学習に向かう意欲を向上させる工夫をしています。今後も、教科の学びが自身の生活や将来に生きるものであることを生徒に実感させていきます。

また、学級や異学年交流などを通して協働的な学びを充実させています。学級活動等の時間では、一人一人の意見や行動が、自身と学級の成長を支えていることを様々な方法で価値づけ、学級組織としての力を向上させてきました。さらに自分や仲間のよさを認識できる活動を増やしたことで「自己有用感」を実感する生徒の割合が増えています。今後もこうした取組を継続し、さらに地域の力をお借りすることで、体験活動等を積極的に行うなどキャリア教育の充実を図っていきます。

今後も、学校教育に対してご理解とご協力をよろしくお願いいたします。